

---

# ネギま！DESTINI

キッド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネギま！DESTINY

### 【Nコード】

N1926BA

### 【作者名】

キッド

### 【あらすじ】

ネギま！以外の魔法と武器を武器にネギま！の世界で暴れまわる

## 輪廻転生（前書き）

ふと思い、ふと投稿  
クレームは受け付けない！

## 輪廻転生

ここは……どこだ？

360°真つ白だ

『来たか少年』

……誰？

『神』

ペーパー？

『それは紙、てか言葉じゃ伝わりにくいよ！』

……光の玉が喋ってる

『おぬしは死んだぞ』

ふーん、死んだんだへえ……じゃあここにいる俺何ッ！？

『魂』

どうりで、んで天国地獄どっち？

『輪廻転生』

ふーん輪廻転生ねえ……はい？

『納得してんのか戸惑うのかハッキリさせるよ』

ふっ、無理！！

『威張るな！』

……このシャッターは……何？

『このシャッターの向こうは平行世界に繋がってる』

そうそう、向こうはキツいから少老不死にしないとやる』

だったらんな場所行かせんな、てか少老って？

『見た目が少ししか老けない』

少しやだ

『行ってこい！』

うわあ！黒い手がわさわさ来たあ！結構キモイ

『ちなみに世界はネギま！だ』

今言つか！？

魔法どうすんだ！武器h

言い切る前にシャッターの奥に引っ張り込まれました  
ネギま全巻持って良かった

## プロローグ（前書き）

最初に出る原作キャラは意外なあの人

思いつきで考え、色々変わりますが暖かい目をお願いします

## ブローグ

ここはどこだ？

周りは一応明るいけど暗い、夜かな？

あれは家かな？

人の気配はしないし、見た目からすると廃工場かな、住むのに問題はないな

お、鏡だ

「嘘だろ、背え縮んでるし！しかも、格好や顔がF a t e / Z e r  
oのギルガメッシュじゃん！

ガチで金色の鎧装備してるよ」

声までは違ってたか

武器は……取り出せた。まだ特訓がいるな

魔法はどうだ？

「プラクテビギナル火よ灯れ」

無反応

杖は拾った

だから試した

「プラクテビギナル火よ灯れ」

「プラクテビギナル火よ灯れ！！」

30分後

「プラクテビギナル火よ灯れ！！」

もう、はあああああ

バサア

へ？

翼生えたあああ桜咲きたいな翼にカラーは黒

「プラクテビギナル火よ灯れ！！！！」

「もうやだ、別の呪文唱えてやる

ヒヤド！」

ピヤッ

出来たよドラクエ出来たよ！次

「ブリザド！」

FFも出来ました

じゃあ次

「レイザス」

・hackも出来たよ

「ザケル」ガツシユも出来たよ

「荒れ狂う流れよ、スプラッシユ！」

ドドドドド

テイルズも！ならば

「アイスメイク『盾』《シールド》」

フェアリーテイルも！

やつふうーこれは凄いぜ！

てかここどこ？

「ほら、こっちこっち」

「待ってよお姉ちゃん」

何奴！

「誰！？」

「それはこっちの台詞だ」

「私はポヨ・レイニーデイ」

「ザジレイニーデイです」

いきなり原作キャラ来たあ！

てことはここ魔界！？

そうだ名前……昔ゲームで使ってたほうか、ギルガメッシュ



か、どうしよう

良いよね……

「ギルガメッシュだよろしくな」

見た目重視！

理由はなんとなく

「ここって魔界？」

「なに当たり前の事いつてんの」

「君、変わった翼ですね」

変わってんの！？

「あなたここに住んでんの？」

「まあな」

「たしかに変わった翼ね

村に来る？」

変わった変わったさうさ

「良いのか？」

「モチロン。見た目的にザジと同年ね、私のことは姉がつくなら  
なんでも良いわよ」

「じゃあポヨ姉」

「「早」」

「この翼って変わってるの？」

「私たちの翼はこんな感じだから」  
かけええ！

5分後

「ここがポヨ姉達の村？」

「そう」

グウ

「何の音？」

グウ

「また」

「俺の腹の虫だ」

「お腹すいてんだ」

恥ずかしいから顔を逸らす

「家に来る？」

「へ？良いのか？」

「別に良いです」

「・・・お邪魔します」

レイニーディ家

「ただいま」

「ただいま」

「・・・お邪魔します・・・」

「ポヨ、ザジ、この人は？」

あら、変わった翼ね」

もう慣れたよ

「はじめましてギルガメッシュって言います」

「礼儀正しいわね」

「メイ・レイニーディです」

レイニーディ家って美人揃いだな

「でしょ」

「声に出してました？」

「ええ」「／／／／／／」

ヤバイ恥ずい

俺がアタフタしてると

「可愛い」

「ふえ」

「とりあえず上がって、今ご飯にするから」

「……いただきます」「」「」

「ギルガメツシュ君お家は？」

「外れに」

「あれ廃工場でしょ」

否定しない

「なら家に住まない？」

へ？

いまこの人なんて、家に住まないか……だと？

「いえ、でも、その……」

「なに遠慮してんの、遠慮しなくていいよ  
ならば家に住めー!!」

「ポヨ姉命令かよ！

つてうわあああ」

「あら、すっかり仲良しね」

そんなメイさんを尻目に俺はザジとポヨ姉にいじられてた

レイニーディ家での生活が始まった

原作の地 真帆良へGO(前書き)

訂正

## 原作の地 真帆良へGO

レイニーディ家にお世話になってからはや5年いろんな事があった。村人変わった翼って言われたり変わった翼って言われたり変わった翼って言われたり変った魔法って言われたり翼多過ぎだろ

その後ザジやポヨ姉と翼の出し入れの特訓したり身体能力の特訓したり、勉強したりめんどくさかった

ちなみザジは麻帆良に行きました

「暇だ」

ザジが麻帆良に行って一年経ったから原作はそろそろか

「ギル」

そうそう、レイニーディ家の人にはギルガメッシュじゃ長いからと言う理由でギルって呼ばれるようになりました。

「なに？ポヨ姉」

「麻帆良に行くか？」

何ですと？

「学費とか、その・・・いろいろあるし」

「遠慮しない、家で出してやるから遠慮ばかりしてると損するぞ」

「じゃあお言葉に甘えて」

「ほい制服」

なんでも制服あんの？

「実はもう決定済み」

「拒否権無いんかい！」

「じゃ、行つてらっしゃーい」

地上

「眩しい。何？麻帆良駅？」

出たところどころかよ！

そうだ学園長室に行かないと

わかるけどまっすぐ行ったらおかしいから誰かに聞こう

「すみません」

「何だい？」

タカミチだったー！！原作キャラ三人目！

「あの学園長室はどこですか？」

「もしかして転校生？」

学園長室なら中等部の校舎内だよ

良かったら案内しようか？」

「お願いします」

なんで学園長は中等部に学園長室つくんだよ！

「ついたよ」

なんて事考えてる内に学園長室についたよ

「学園長失礼します」

「失礼します・・・出たあ！ぬらりひょん！」

「慣れたからよいわい

君の教室は3 Aだよ

高畑君案内しなさい

（女子中等部のな）

「わかりました

（学園長本気ですか？）

そう言えば名前は？」

「ギルガメッシュです」

「スゴイ名前じゃのう。

ラストネームはなんじゃ？」

ラストネーム考えてなかった！

ん？そうだ！

「サクリファイスです。

ギルガメツシュ・サクリファイスです」

「じゃあサクリファイス君案内しよう」

さて、原作に介入できるかな？男子中等部だから難しいかな？

その頃学園長は

サクリファイス 生け贄 か

あやつからは妙な感じがしたのう。

刹那君にでも頼んでみるかのお。

そしてギルガメツシュ・サクリファイスは

「ついたよ」

またいろいろ考えてる内についたみたいだな

「ちよつと待っててね」

何だろ？

「じゃあね

声がかかったら入ってね」

「わかりました」

嫌な予感

「サクリファイスさんどうぞ」

「行くか」

ガラッ

ピシャッ

なんだよ見渡す限り女子女子女子女子女子女子女子女子女子  
子女子女子

あのジジイ！

ダダダダダ

朝倉  
side

「転校生かどんな娘だろ？」

ね、  
パル！  
」

「確かにね」

「サクリファイスさんどうぞ」

サクリファイスか、変わった名前ね

とにかくキタキタ

ガラツ

ピシヤツ

ダダダダダ

「パル、顔見えた？」

「少ししか無理だった」

「なんで閉めて走ってっただろうね」

ギルガメッシュ  
side

バン！

「おいこらジジイ！なんで女子中等部なんだよ！男子中等部じゃないのか！？」

「あつとるよ」

「俺は女じゃねえ！第一」

「高畑君、連れて行きなさい」



「わ、わかりました」

「おいこら話は終わってねえぞジジィ！」

そのまま高畑先生に引きずられて女子中等部3 Aに入った

「タカミチどうしたの!？」

「さっきの転校生が逃げたから連れてきたんだよ」

ぶすう

「タカミチその人男性だよ!？」

「学園長命令さ」

こんな形で原作の仲間入りするとは思わなかったわ!

「あ、ザジじゃん。

よ」

「ザジさんと知り合いですか？」

「そんなところ」

「サクリファイ君、自己紹介を」

めんどくさい

「ギルガメツシュ・サクリファイスだ」

「だけですか？」

「以上だ」

「ハイハイハイ!

じゃあ、新聞部朝倉和美インタビューします」

うわぁーガチで?

「まずお名前は？」

「今言つたよな

ギルガメツシュ・サクリファイスだ」

「ファーストネームは？」

「ギルガメツシュ」

「好きな物は？」

「飛ぶこと?」

「何故疑問系?

嫌いな物は?」

「特に無いが、苦手ならある」

「それはなに？」

「ファッション」

「気になる人は？」

「???」

「何意味分らないって顔してんの」

「そのまんまだ」

「特技は？」

「無い」

「インタビュー終わり」

「やっと終わったか」

「担任誰？」

「僕です」

「・・・」

「何歳？」

「10歳です」

「法律的にアウトじゃないのか？」

「まあいいか」

コンコン

「ネギ先生。今日は身体測定ですよ。3 Aのみんなもすぐ準備してくださいね」

出るか

「失礼通してもらいます」

「はい、ギルガメツシュ君」

「あ、そうでしたここですか！？わかりましたしずな先生で、では皆さん身体測定ですので・・・えと、今すぐ脱いで準備してください」

ジー

「ネギ先生のエッチッ」

「うわ〜ん」

ば  
か

「先生ー大変やー」

まき絵が・・まき絵が

」

「何！？」

「まき絵がどーしたの！？」

「わあゝゝ！？」

「お前ら、自分の格好見てから扉開けるよ」

吸血鬼、エヴァンジェリンか  
関係無いよな

主人公設定 + (前書き)

ネタバレあり

見るか見ないかはあなた次第

## 主人公設定 +

名前

ギルガメツシュ・サクリファイス

生前 あらの 荒野 ぎん 銀

本来ならばコンビニの店員が死ぬはずだったのに死んだ

神曰くシャッターをくぐる前に思ってたキャラになるらしい。(声は変わらないらしい)

少老のため、あまり老けない。身長は普通に伸びる

ギルガメツシュのゲート・オブ・バビロンが使える

剣なども飛ばせる

魔法はネギま！以外のなら使える

ザジに好意を抱かれているが本人は気づいていない(これからも増える可能性大)

20

魔族の翼は普段は隠している。地上で翼を出すときはスカーフで口元と頭を隠す

顔の目の下にザジの右目の模様の下半分が両方についている  
翼を出すと上にも模様が出る

名前 不明

通称 ライダー

こいつも転生者

京都でフェイト達という主人公を見て同じ転生者だとわかり、少し話す、だがフェイト派で何度か戦う

武器はFate/Zeroのライダーと同じ

尾行？（前書き）

なんかグダグダ？よくわからん  
まあどうぞ

## 尾行？

今日は休み。

だからギルガメッシュ装備で歩いております。周りの視線？ジャケットを着てつからばれない。

ちなみに部屋は女子寮管理室だった。

ん？あれはネギに神楽坂？何してんだ？二人がいる先を見ると絡繰茶々丸がいる

そうか、あのシーンか介入しよう。

では、空から見るかなジャケットを脱ぎ、翼をだし、飛ぶ

「『光の11矢』」

ゲート・オブ・バビロン

丁度良い、王の財宝を試すか

「…………ふん」

ドドドドドド

すげえ砂煙

「助けてくれたんですか？」

ふむ、正体はばらさない。からな理由聞くか知ってるけど

「あなたは何故二人に追われていた？」

「私達が敵対しているからです」

原作通り

「では」それだけ言つて絡繰茶々丸は飛んでいった

「カモ君……なに？あれ？」

ふむ、降りてやるか

「あなたは誰ですか？」

いきなりそれが

「答える義務はない」

「兄貴！コイツは悪魔だ！エヴァンジェリンの仲間っすよ！-」

「うるさいぞ雑種」

「さっきの大量の剣はアナタですか？」



「答える義務はない。

貴様達とあのガイノイドはどうゆう関係だ？」

「敵だよ！」

「ふむ、それだけか？雑種」

「それは」

生徒と教師だろ？

「少年……貴様はどんな覚悟で魔法を放った？」

「……………」

だんまり……………」

「中途半端な気持ちなら行動するな。

勝つのは覚悟を決めた奴だ」

これだけ言えば良いだろう

「何かあればこれに連絡しな、相談ぐらいなら受けるぞ」

ネギside

あの黄金の鎧を着た人に言われた。「中途半端な気持ちなら行動するな」それにはただ黙ることしかできなかった

自分の覚悟……まだよくわからない

カモ君は敵つすよ敵！って言ってた

後、最後に渡された数字の書いてある紙。携帯番号とは違うみたいだけど

とりあえずはこれからについて考えよう

ギルガメッシュside

さて、

「我に何か用かな？」

「貴様いつの間になに？」

ちなみに翼はしまった、スカーフは流石に外さない

「物騒な物を向けるな」

「しまった！」

龍宮からライフルを奪う「我、汝に問う。

貴様は何のために引き金を引く

龍宮 真名」

「ふむ、難しい質問だな。

金の為かな？」

金の為……か……

「大切なパートナー

言い換えれば最愛の人が死んでからかい？

そんな発言するのは」

「貴様、どこまで……」

「魔眼をもつ半魔人<sup>ハーフ</sup>の巫女スナイパー 龍宮真名。

ぐらいかな」

「お前は一体……」

「他言無用だ

俺は 転校生のギルガメッシュ・サクリファイスだ」

「と言うことはお前は魔族」

「そ。

俺のことはギルで良い」

「では、私も真名と呼んで貰おうか」

「了解真名。じゃあな」

「ああ、学校でな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1926ba/>

---

ネギま！DESTINI

2012年1月8日18時51分発行